

第112回ASCセミナー

日本アフリカ学会 関東支部 共催



事前登録こちら

「ケニアの2つのコミュニティから ～マサイの伝統生活とキベラスラム～」

2026年5月18日(月)

場所: **Hybrid**

Online: ZoomMeeting / Onsite: 115 教室
(東京外国語大学 研究講義棟 1F/ 府中キャンパス)

言語: 日本語・参加費: 無料

時間: 17時40分～19時10分 (日本時間)

【講演者】早川千晶氏・永松真紀氏

【早川千晶氏】ケニア在住37年。大学生のときに世界放浪の旅に出発。世界各国を旅し、そのまま日本に帰らずケニアに定住。社会的に不利な立場にある民族や貧困地区のコミュニティと共に活動を開始。

【永松真紀氏】1988年添乗員派遣会社に所属し、添乗員となり、世界中くまなく回った末1996年より本格的にケニア移住。2005年4月、伝統的生活を送るマサイの第二夫人となり、夫と共にコミュニティサポート、マサイを良く知るためのマサイエコツアーや日本の講演会などに力を入れている。2012年ジャクソン教育基金(MJEF)を立ち上げ、地域の子どもの未来のための活動を始める。

【要旨】

ケニアに30年以上暮らし、マサイの伝統的コミュニティに嫁いで20年----永松真紀さんを迎え、マサイの人々とともに生きてきたリアルな体験を語っていただきます。同じく、スラムで支援団体を立ち上げケニアに住んで30年----早川千晶さんからも、ケニア・キベラスラムのお話を一緒にお聞かせいただきます。

自然と調和するマサイの伝統的な暮らしや文化、そして現代ケニア社会の変化の中で、マサイのコミュニティに今何が起きているのか。

義務教育化などの社会制度が伝統社会に与える影響や、異文化の中で生きる日本人女性としての葛藤、文化的アイデンティティがぶつかり合う夫婦のリアルな日常にも迫ります。また、夫ジャクソンさんが人生の節目で行ってきた伝統儀式を共に経験した話や、マサイのコミュニティと協働して行う伝統文化体験スタディツアーの取り組みとその意義についても紹介します。

さらに、マサイの伝統社会への理解を手がかりに、キベラスラムのコミュニティについても触れながら、アフリカの社会と文化を多角的に捉える対話の場をつくります。

キーワード: ケニア、伝統生活、異文化、マサイ族、文化的アイデンティティ、夫婦、現代ケニア社会、キベラスラム



現代アフリカ地域研究センター
African Studies Center-TUFS

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1 (研究講義棟4階 401E-2号室)
3-11-1 Asahicho, Fuchu, Tokyo 183-8534 Japan
(Room 401E-2, Research and Lecture Bldg.)
Email: asc@tufts.ac.jp